

<破傷風>

暑い季節になるにつれ、天気のいい日は外へでかけたりこれから海や川へ行ったり自然と触れ合うことも多くなると思います。

破傷風とは、怪我の傷口から破傷風菌が入り増殖し体内の末梢神経や、筋肉に指令を出す神経に入り込み痙攣（けいれん）を起こさせます。破傷風菌は古釘、人間や家畜の糞便や土の中にいますが、孢子で存在しているだけで活動はありません。しかし、傷口から人体に入り込むと増殖し毒素を出して人体にあらゆる影響を与えます。食べ物を飲み込むといった動作、呼吸や排尿などの動作は各部位の周辺の筋肉が行うので、破傷風にかかるとうまく指令が筋肉に行きとどかず、場合によっては死に繋がる可能性がある怖い病気です。

破傷風は受傷してから発症するまでに潜伏期間があり、多くは1～2週間ですが短い時は数時間で症状が出たり長い時は2か月以上の事もあります。したがって発病時には傷の表面は治癒し、感染部位が不明のため発見が遅れてしまうこともあります。

発病の初期は、首筋が張る・食べ物を噛むと疲れといった筋肉性の症状やよく眠れないなどが1～3日続き、次第に口周辺の筋肉がこわばって口が開けにくくなります。この状態で適切な治療が開始されれば予後は良好です。受傷した時は十分に消毒し、汚れのひどい傷・異物が入っているまたは、体にあらゆる症状が出た場合は自己判断せず医師の診察を早めに受けることが大切です。